

2024(令和6)年度 企画展

写真展

非平和展 戦禍の顔



「青少年愛国教育」の一環として、学校児童に突撃銃の使い方を教えるドネツク人民共和国軍(自称)の兵士/2018年3月31日/ ロイター/アフロ/Alexander Ermochenko

開催期間:2024(令和6)年 11月9日(土)~12月8日(日)

開催期間中の休館日: 11月11日(月)・18日(月)・19日(火)・25日(月), 12月2日(月)

開催場所: 川崎市平和館 1階 平和の広場

入場無料

開館時間: 9:00-17:00

主催: 川崎市平和館



KAWASAKI
SDGs

川崎市は持続可能な開発目標 (SDGs) を支援しています。

~お問い合わせ先~

川崎市平和館: 川崎市中原区木月住吉町33-1 Tel: 044-433-0171 Fax: 044-433-0232



「非平和展 戦禍の顔」について

企画展のタイトルにも使われている「非平和」という言葉は平和学という学問の用語です。非平和は、戦争だけでなく貧困や環境汚染など、尊厳ある生を損う、人為的に引き起こされたあらゆる状態を含みますが、戦争が非平和の最たるものであることは、論をまちません。

二度にわたる悲惨な世界規模の戦争を苦い教訓として、国連憲章で違法化されたはずの戦争は、今日までなくなったことはなく、それどころか2010年代から増加傾向にあります。

2024(令和6)年度の非平和展は、戦後～現在まで、さまざまな戦禍に置かれた人々の顔をテーマとした写真展を開催します。さまざまな時代や地域の戦禍の顔は、何を語りかけてくるのでしょうか。「非平和展 戦禍の顔」の開催を通して、戦争のない未来の実現を、来場者の方々とともに考えていきたいと思えます。

「非平和展 戦禍の顔」関連イベント 上映会

ガザ 素顔の日常



©Canada Productions Inc., Real Films Ltd.

監督：ガリー・キーン、アンドリュー・マコーネル

配給：ユナイテッドピープル

92分/アイルランド・カナダ・ドイツ/2019年/ドキュメンタリー

東京23区の6割ぐらいの狭い場所にパレスチナ人約200万人が暮らすガザでは、人々が貧困にあえいでいる。イスラエルが壁で囲み封鎖したため、物資は不足し移動の自由もなく「天井のない監獄」と呼ばれる。それでも日常を力強く生きようとする人々がいる。

上映日時: 2024(令和6)年11月9日(土) 14時～

上映会場: 川崎市平和館 1階平和の広場

お申し込みは右QRコードから→



シャドー・ディール 武器ビジネスの闇



©Shadow World Productions, LLC

監監督：ヨハン・グリモンプレ

配給：ユナイテッドピープル

90分/アメリカ・ベルギー・デンマーク/2016年/ドキュメンタリー

世界は武器で溢れているのに、実態は詳しく知られていない。映画「シャドー・ディール 武器ビジネスの闇」は、金と権力と個人の野望が、国家の安全保障や世界平和、人権や開発よりも優先される国際武器取引の実態を描く衝撃のドキュメンタリーである。

上映日時: 2024(令和6)年11月23日(土) 14時～

上映会場: 川崎市平和館 1階平和の広場

お申し込みは右QRコードから→



要申込: 各回先着40名様 QRコード、川崎市平和館HPのフォーム、お電話(044-433-0171)、またはFAX(044-433-0232)でお申し込みください。(定員に達し次第締め切り)